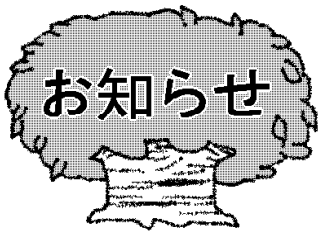
旭ヶ丘キリストの教会　ニュース



《受難週の歩み》

４／５（日）〈棕櫚ルカ19:28〉受難週礼拝
／６（月）〈宮浄ルカ19:45〉
／７（火）〈討論ルカ20:1f〉
／８（水）
／９（木）〈洗足ルカ22:1f〉10：祈会
／10（金）〈受難ルカ23:1f〉
／11（土）13-16子供オープンハウス
／12（日）〈復活ルカ24:1f〉イースター礼拝

《祈りの課題》

①新型コロナ・ウィルス禍の収束のために
②礼拝に来れなかった人々のために
③主が教会学校の子供たちもお送り下さいますように

友人との手紙　「新型コロナ・ウィルスについて」

【友人からの手紙】

(⌒-⌒)お元気ですか?仙台でも、13人目とか!手洗い、うがい、人の中には出掛けない!
そんな個人の努力で、大丈夫なのかね?日曜日の礼拝などはどうしているの?
どんどん、コロナが身近になってくるようで嫌ですね!!
ともあれ、この騒動を乗り越えて、お互いに長生きして、音楽を楽しみましょう。

==========

【私の返信】

いつものように元気です。塩素消毒になるというのでプールでの水泳も続けてるよ。
東北大学疫病学の押谷仁教授と瀬名秀明との対談書『パンデミックとたたかう』という本を今日読み終え、今回の出来事への対策について大体の指針が分かりました。
疫病というのは専門家にとっても不確定要素が多く、人間が完全にコントロールできる類いのものではなく「これで絶対大丈夫！」とは言えないのだそうです。
本の中で特に印象的だった言葉：
・「楽観的にならず、また逆に悲観的にもならないこと。大事なのは決して絶望しないこと」
・「専門家にも政治家にも判断・決断は難しいが、思考停止しないこと」
・「自分の考えに近い意見に飛びつき固執しないこと。事態は時々刻々変化する」
・「周囲には重症化する人がいるので、自分だけでなく、他者への配慮が大切」
東日本大震災で学んだことの一つは、「このような時こそ礼拝を以て神様に助けを祈り求めること」だったので、礼拝は続けていきます。聖書の言葉を添えます：

「いと高き者の元にある隠れ場に住む人、全能者の陰にやどる人は主に言うであろう、『わが避け所、わが城、わが信頼しまつるわが神』と。主はあなたを狩人の罠と、恐ろしい疫病から助け出されるからである。主はその羽をもって、あなたをおおわれる。あなたはその翼の下に避け所を得るであろう。そのまことは大盾、また小盾である。あなたは夜の恐ろしい物をも、昼に飛んでくる矢をも恐れることはない。また暗闇に歩きまわる疫病をも、真昼に荒す滅びをも恐れることはない。」(詩篇91:1-6)